

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：24302

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884052

研究課題名(和文) 対馬に所在する中国・朝鮮伝来經典の基礎的研究

研究課題名(英文) A basic research on Buddhist scriptures which were transmitted from China, Korea in Tsushima

研究代表者

横内 裕人 (YOKOUCHI, Hiroto)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：50706520

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：東アジアにおける日本・朝鮮・中国の文化交流を考える基礎情報を得るため、長崎県対馬市に所在する渡来経巻を悉皆調査した。具体的には、豆敷・多久頭魂神社に所蔵される高麗再雕版大蔵經の詳細な目録を作成し、他の寺院等に所蔵される再雕版大蔵經との比較検討を通じて、本経巻の成立・伝来を考察した。その結果、本大蔵經は、おそらくは15世紀頃に印刷され、江戸時代までに対馬に伝来した経巻であり、李氏朝鮮と対馬との緊密な関係の中でもたらされた文化財であることが確認された。

研究成果の概要(英文)：In order to consider interactions of Buddhism among Japan, Korea and China, the researcher collected basic informations of Buddhist scriptures transmitted from China, Korea in Tsushima. We made a detailed catalogue of the Tripitaka Koreana owned by Takuzutama-shrine, and compared some Tripitaka to examine the period when it was printed and transmitted from Korea to Tsushima. We concluded that the tripitaka Koreana of Takuzutama-shrine was printed in the about 15th century and enshrined to Takuzutama-shrine by the edo-era.

研究分野：日本中世史

キーワード：対馬 中国・朝鮮伝来經典 書誌 大蔵經 高麗版

1. 研究開始当初の背景

日本と中国大陸・朝鮮半島との結節点にあたる対馬には、高麗時代の版本大蔵経・大般若経、元時代の版本大般若経・五部大乘経などが所在し、「中国版・高麗版の仏教がこれほど濃く分布する地域は他にはない」(村井章介「中世における東アジア諸地域との交通」『日本の社会史』第1巻、1987年)とされる。これらは日本の対外交渉史を研究する上での重要な渡来文物であり、かつ中国・韓国では失われた文化財として、東アジア仏教史上にも希有な宗教遺産である。

例えば長松寺(上対馬町琴)所蔵の高麗版大般若経は1011年に開版された初雕版大蔵経の一部で、同類の経巻は壱岐市安国寺所蔵大般若経(昭和50年重要文化財)が知られているのみである。平成23年に文化庁による詳細調査が終了し、世界的見知から鑑みて貴重な文化財として国重要文化財に指定された。本経巻は、現在、国庫補助金による文化財修理が行われており、今後の保全が図られるとともに、修理による新知見がもたらされ、日朝仏教交流史上重要な成果が得られつつあるところである。

この他に従来知られている主な渡来経巻を挙げれば(山本信吉「対馬の経典と文書」『仏教芸術95 対馬・壱岐の美術特集』、1974年)

(ア) 多久頭魂神社(厳原町豆敷)所蔵の高麗再雕版大蔵経(長崎県指定文化財)1012冊

(イ) 西福寺(上対馬町西泊)所蔵の元版(普寧寺版)大般若経(長崎県指定文化財)429帖

(ウ) 東泉寺(豊玉町仁位)の元版(弘法寺版)五部大乘経(長崎県指定文化財)208帖

(エ) 妙光寺(上対馬町伊奈)の元版(普寧寺版)大般若経(対馬市指定文化財)596帖

などがある。

(ア)は、伝存数の少ないほぼ完存の再雕版大蔵経として貴重であり、(ウ)は13世紀後半に元・大都で開版された弘法寺版系大蔵経の一部とみられる華嚴経が含まれており、他に確実な類本を見ない経巻として世界的にみて貴重な文化財である可能性がある(村井章介「対馬仁位東泉寺所蔵の元版新訳華嚴経について」『アジアのなかの中世日本』、1988年)。この他にも、厳原町豆敷金剛院に高麗再雕版大般若経約167巻(玄統2年(1334)等高麗天和寺寄進識語、宗貞盛寄進識語)が確認されている(早稲田大学水稲文化研究所編『海のクロスロード対馬』2006年)。

しかしながら、従来、これらの経巻については所在確認と概況調査のみが成されているのみで、史料価値が不明確であり、員数も断簡等を計上していないなど、資料保全上も問題を抱えている状況にある。こうした状況に鑑み、対馬所在の渡来経巻の書誌情報を把握することを目的に、

(1) 島内の渡来経巻の所在調査

(2) 既知の経巻についての一点毎の詳細調査とデータベース化

を二つの柱として調査を遂行する計画を立てた。これにより我が国における渡来経巻、特に高麗版の書誌情報が把握されることとなり、日本のみならず東アジアにおける仏教経典の流通の基礎資料を提供できると考えた。

くわえて、こうした基礎調査により近年多発している島内での文化財盗難への備えとなると期待された。(平成18年(イ)西福寺大般若経170帖盗難、平成24年(ア)多久頭魂神社大蔵経1冊が盗難)

2. 研究の目的

本研究は、長崎県対馬に所在する中国・朝鮮伝来経巻を悉皆調査し、目録・データベースを作成することにより、日本と中国・朝鮮との仏教交流の実態を解明して貴重な宗教遺産の意義を明確化するとともに、保存管理体制構築のための書誌情報の提供を目的とする。

具体的には島内の渡来経巻の所在調査と既知の経巻についての一点毎の詳細調査とデータベース化を行い、我が国における渡来経巻の書誌情報を把握して、日中韓に亘る東アジアにおける仏教経典の流通の基礎資料を学会に提供し、仏教を通じた文化交流の歴史の社会的認知を図るものである。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者を代表とする調査団を組織して現地における原本詳細調査・所在確認調査と、その結果得られた調査データの整理・分析・研究の二本立てで遂行した。

長崎県立対馬歴史民俗博物館を現地調査・原本研究の現地拠点に定め、研究代表者の所属する京都府立大学をデータ整理・分析研究の拠点とした。調査対象は、計画当初では、4件の経巻群としていたが、多久頭魂神社大蔵経の必要調査項目が膨大で、また破損等により取り扱いに困難が生じたため、本研究では多久頭魂神社大蔵経の調査を集中的に行うように計画を変更した。

まず現地における調査は、経巻一点毎の書誌的な悉皆調査を行い、個別経巻の文化財的価値を把握することに努めた。研究代表者及び研究協力者で調査団を組織し、現地拠点と定める対馬歴史民俗博物館において、経巻の書誌情報調査を行った。その際に、2人1組で1台のパソコンを用い、調査データを直接入力し情報をデータベースに蓄積した。調査項目は、以下の12項目である。

【書名】【題】(外題、千字文、覚外題、首題、尾題)【員数】【寸法】【欠損状況】【表紙】【紙数】【刊記】【特別版記】【版記場所】【刻工名】【備考】(巻中・見返等の墨書・印記、欠筆、音義・校勘後跋)

また調査前には、虫害・鼠害で生じた塵埃

を清掃し、適切な管理保全が出来るように処置をした。さらに所有者の許可を得て、調査に必要な最小限の写真撮影をデジタルカメラで行った。

次にデータの整理は、京都府立大学にて行い、現地で得られたデータの入力と整理を行った。特に刻工名については、異体字が多く、また印刷が不鮮明で現地での判読が困難であったため、従来知られている増上寺所蔵の再雕版版記や韓国で刊行されている刻工名集成を参照しながら文字の確定に努めた。以上により、多久頭魂神社所蔵大蔵経のデータベースを完成させることとした。

4. 研究成果

(1) 調査経過

【平成 25 年度】

平成 25 年 12 月 3～6 日、平成 26 年 3 月 4～7 日の合計 8 日間、長崎県立対馬歴史民俗資料館（厳原市）において、多久魂神社大蔵経の調査を行った。調査には、資料館学芸員・職員及び本学大学院生の協力を得た。369 冊分の調査を終えた。また現地調査後に、京都府立大学においてデータの整理を行った。

【平成 26 年度】

昨年度に引き続き、平成 26 年 7 月 21～24 日、平成 26 年 12 月 15～19 日、平成 27 年 3 月 5～8 日の合計 13 日間、対馬歴史民俗資料館において調査を行った。この調査で残り 673 冊の調査を終え、全巻調査が終了した。さらに調査終了直前に多久頭魂神社において木造収蔵庫の確認調査を行ったところ、資料館に寄託されていなかった未指定の経巻断簡が発見された。

また、年度末には昨年度データと統合し、本蔵のデータベースを完成させた。2ヶ年の調査で撮影した写真データを京都府立大学内の当研究室において閲覧に供せるように環境を整備した。（ただし写真閲覧には、所蔵者の許可が必要である。）

(2) 本蔵の特徴

本蔵は、昭和 61 年長崎県指定有形文化財に「多久頭魂神社の大蔵経 727 冊外破本一括」として指定されている。平成 24 年 10 月、多久頭魂神社木造収蔵庫に収蔵されていた本蔵の 1 冊（史料番号 157-3）が盗難の被害に遭った（現在も行方不明）。その後、対馬歴史民俗資料館に 1012 冊が緊急寄託され現在に至っている。この外、調査開始時には、県指定されている経巻の内、史料番号 11-2 の 1 冊は所在が確認できなかった。

本蔵は高麗再雕版大蔵経と呼ばれる一切経で、冊子本全 1,187 冊の内、1014 冊を遺存している。残存の状況としては、大般若経が、1 冊（5 巻分）を除いて欠けていることが特徴的である。大般若経は、転読等にも利用されることから、早くに流出したものと考えられる。それ以外は、完存とまではいかないものの、再雕版大蔵経の一セットがほぼ完存す

る事例として、国内外においても大変貴重な文化財である。

今回の調査によって判明した書誌的事項を以下に列記する。

体裁は、袋綴装冊子本（五ツ目綴）で原装をとどめている。寸法は、縦 40 cm 前後・横 31 cm 前後を測る大型本である。表紙は前後に薄茶色楮紙原表紙を有し、左上隅に重廓の書き題簽がある。題簽に外題を墨書し、題簽外下に千字文函号を墨書する。各冊には数巻を合冊しており、分巻は増上寺所蔵高麗版大蔵経に一致している。

本紙料紙は、厚手の楮紙あるいは藁入りの楮紙で、厚さ・色・品質等、均一ではない。版式はおおむね一紙 23 行、一行 14 字だが、「華嚴経」（史料番号 104-1～116-1）は一紙 24 行、一行 17 字詰である。本来、卷子装一紙を表 12 行・裏 11 行にして半折し袋綴装としている。版記は、左右いずれの場合もあるが、「新集蔵経音義随函」（史料番号 511-1～515-6）・「一切経音義」（史料番号 629-1～639-3）は中央にある。経名・巻次・紙数・千字文函号・刻工名を必要に応じて記載している。丁数の表記は、「張」を使うが、一冊の中に一部「丈」を用いるものも散見する。また前述の華嚴経は「幅」を用いる。界線は、通常、上下単辺であるが、前述「新集蔵経音義随函」は四周単辺あるいは上下単辺・左右双辺である。刊記は尾題後ろにあり、「丁未歳高麗国大蔵都監奉／勅雕造」「癸卯歳高麗国分司大蔵都監／勅雕造」などと、干支と雕造場所を記す。

また墨書については、以下の 4 種が認められる。外題・本文・刊記等の補筆、表紙台紙（糊剥により確認可能）等の覚外題・校正識語、所持識語、訓点などである。

特に はほぼ全ての冊に「菜十一／校正第一坐」などと、千字文函号と校正担当の組織が記されている。「金光明最勝王経巻第一之五」（史料番号 135-1）には表紙台紙に「十坐／校正六／十八 食」・巻末に「都校六坐／（荘力）三坐／中校二十三坐」の墨書があり、印刷から装訂に至る過程で、校正・中校・都校・荘などの工程があることが判明した。こうした情報を集成分析すると製本の組織・工程を明らかに出来ると思われる。また「貞元新定釈教目録」には小口書「目録（花押）十一内」（史料番号 557-1～560-3）の墨書があるが、日本への渡来以前に記されたものとして注目される。

所持識語については、「住持見之」（史料番号 255-1）・「此経数見／住持」（史料番号 452-1）などが見え、近世において日本において記入されたものと思われる。

「十一面観世音神咒経」（史料番号 167-1）の 5～8 張には、日本において記入された片仮名の傍訓が確認できた。

これらのデータは、刻工名等も漏らさず今回作成したデータベースに網羅している。今後は、所有者の許可を得た上で広く公開利用

できるように整備していく必要がある。

(3) 本蔵の印刷と伝来

以上、本蔵を詳細に調査した結果、印摺(成立)や伝来に関わる直接の文字情報は確認できなかった。だが、印刷の版面の摺りについて、印刷年代が明かな他本と比較することによって下記のように推測される。13世紀末、高麗恭愍王追善のために印刷された大谷大学本、李朝世祖が1458年に印刷した50部のうちの1部である増上寺本、近代に印刷された泉涌寺本などと文字の欠落・摺りの良・不良など比較すると、大谷大学本以降、泉涌寺本以前の印刷となる。多久頭魂神社本は刊記が完存していることから、刊記から「高麗」の文字を除いた世祖期50部とは異なる。大型冊子本の形状、日本伝来以前の墨書などから、15世紀頃の成立と一応は考えられるが、詳細は他蔵とのより多角的な比較が必要となろう。(なお、以上の印刷時期の分析については、須田牧子氏の協力を得た。)

また伝来については、既知の史料としては、貞享3年(1686)の『対州神社誌』「多久頭魂神社」条に「一、一切経全部、一、大般若経巻部、右は貞盛様御寄進」とあり、宗貞盛の寄進と伝える。本調査では、江戸時代以降の日本での墨書が確認できるが、対馬における他の史料と付き合わせるにより確定していく必要がある。

(4) 今後の展望

今回、調査対象に出来なかった断簡類が多久頭魂神社収蔵庫に残されている。この中には、本蔵の僚巻と目される高麗版経(大般若経巻第三百四など。装訂は折本装。)や室町時代後期と思われる和版の大般若経がある。今後は、これらの経巻を調査して、本蔵の全体像を復元するとともに、印刷・伝来に関わる情報を集め、本蔵の性格究明を進める必要がある。

本蔵の全体的な特徴としては、大般若経が1冊(5巻)を除いて欠けている点であり、豆叡金剛院に所蔵される高麗版大般若経との関係が取りざたされている。これについては、装訂が異なること、本蔵や断簡類に金剛院と同一巻号の冊子があることなどから、伝来を別にするものと考えられるが、金剛院の経巻との比較調査が急務である。

また本蔵以外に残された大般若経・五部大乘経等の渡来経巻についても、同様の悉皆調査を行い、意義づけることにより、対馬における日本と大陸との文化交流の実態を解明することができると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計1件)

1. 横内 裕人, 「東大寺の経巻聖教にみる東アジア仏教の交流」, 奈良大学大学院文学研究科特別講義, 2015年1月24日, 奈良大学(奈良県・奈良市)

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横内 裕人 (YOKOUCHI Hiroto)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号: 50706520

(2) 研究分担者

なし
()

研究者番号:

(3) 連携研究者

なし
()

研究者番号:

(4) 研究協力者

須田 牧子 (SUDA Makiko)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号: 60431798

池田 寿 (IKEDA Hitoshi)
文化庁・文化財部美術学芸課・主任文化財調査官

藤田 励夫 (FUJITA Reio)

文化庁・文化財部美術学芸課・文化財調査
官

山口 華代 (YAMAGUCHI Kayo)
長崎県立対馬歴史民俗資料館・学芸員

荒木 和憲 (ARAKI Kazunori)
九州国立博物館・主任研究員
研究者番号：50516276

一之瀬 智 (ICHINOSE Tomo)
九州国立博物館・研究員